



### 岩手民話まつり初開催 伝承者が葛巻町に集結

第1回いわて民話まつり（実行委員会主催）が6月4日、くずまき高原牧場で開催されました。本町をはじめ北上市、滝沢市、雫石町、九戸村から6団体が参加し、シュクランハウス6棟に分かれ、各地域の伝説や昔話を披露しました。町内外から約200人が来場。本町からは、くずまきかだる会（藤岡一雄代表、会員18人）が、浦島太郎など日本の昔話を布絵で表現する布絵芝居、「いちっよのつつつ」や「へっぴり嫁」など葛巻の昔話を方言を交えながら語ったほか、葛巻の盆踊り唄なども披露しました。来場者は、うなづいたり、笑ったり、語り手も聞き手も、民話の世界に引き込まれ、会場は終始、和やかなムードに包まれました。

くずまきかだる会の昔話に聞き入る来場者④ 葛巻の昔話「いちっよのつつつ」を披露した熊谷ミヨさん



### バイオリン教室始まる 曲目は♪ちょうちょう

保育園と児童館の年長児を対象としたバイオリン教室。6月から各保育園を会場にレッスンが始まり、子どもたちは目を輝かせながら練習に励んでいます。今年取り組む曲は「ちょうちょう」。県弦楽研究会（菊池昭子会長）が指導に当たり、町連合音楽会などでの発表を目指します。菊池会長は「今年で3年目。雪像コンテストにバイオリンが登場するなど町民に浸透してきていると感じます。2週間に一度の練習ですが、10月の音楽会に向けて、一つの曲を作り上げていきたい」と力を込めます。葛巻保育園の遠藤陽人君は「初めてだけど、とても楽しい。音楽会に向けて頑張りたい」と張り切っています。

子ども一人一人にきめ細かな指導を行う県弦楽研究会と、真剣な表情で練習に励む園児ら（葛巻保育園）

### 進学の意味を考えよう 中高一貫の進路講演会

葛巻高校（梅津久仁宏校長、生徒126人）は6月7日、同校体育館で進路講演会を開催しました。中高一貫教育の一環として行われ、同校の生徒と町内の中学3年生ら約200人が出席。山形大学工学部の門馬甲兒教授から「社会の変化と進学の意味について考えてみよう」と題した講話を聴きました。門馬教授は、人口減少問題に触れ「親世代と全く違う時代を生きていくことになる。だから進路は真剣に考えてほしい」と訴え、進学について「今は大学進学が普通の時代。課題を発見し解決する能力を養うことができるのが大学。この能力こそが社会で必要とされている」と強調しました。



人口減少問題に触れ、高校卒業後の進路は真剣に考えてほしいと訴えた門馬教授

### 定住と新婚生活を支援 2世帯に奨励金を交付

6月6日、定住奨励金と新婚ライフサポート金の交付式が町長室で行われ、町に1ターンで定住した1世帯と新婚1世帯が出席。鈴木重男町長から移住者への奨励金と新婚世帯へのサポート金（くずまき商品券）が贈られました。鈴木町長は『子育てや医療など、よそにはない施策で安心して暮らせる町づくりに全力で取り組んでいます。「一緒に葛巻で暮らしましょう」と町の魅力を積極的に情報発信していただきたい』とあいさつしました。昨年9月に岩泉町から親子6人で転入した服部美晴さん（田子）は「子どもが多いので、とてもありがたい。生活費として大切にに使わせていただきます」と感謝しました。



鈴木重男町長から奨励金の交付を受ける新婚夫婦と移住された家族

### 守ろう！希少サクラ草 サミットに90人が参加

滝沢市の野生サクラ草ネットワーク（齋藤政宏代表）主催の第12回野生サクラ草サミットが5月28日と29日の2日間、くずまき高原牧場などで開催されました。県内外から愛好家約90人が参加。元木地区でサクラ草の群生地を見学したほか、小屋瀬中の生徒がサクラ草の保護活動などについて実践発表を行い、地域の宝である自然環境を守る意識を新たにしました。散策路づくりをテーマにワークショップも行われ、自然保護地やその周辺を含む活用策について知恵を出し合いました。岩泉町から参加した畠山博直さんは「葛巻では地域ぐるみで保護し、増やす努力をしている。今後も継続してほしい」と力を込めました。



元木地区のサクラ草群生地を見学する参加者



躍動感あふれるヒップホップダンス、華やかな照明、重低音が鳴り響く音響など、本格的なダンスステージに会場から大きな拍手が沸き起こった

### 日韓プロダンサー来校 迫力あるヒップホップ

小屋瀬中学校（佐久山明彦校長、生徒21人）は6月14日、同校体育館でダンス公演「これがヒップホップダンス！」を開催し、生徒や保護者ら約60人が鑑賞しました。この公演は文化庁主催の「文化芸術による子供の育成事業」により行われたもの。ダンスボーカルユニット「DA PUMP」のメンバーら世界で活躍する日韓のプロダンサー10人が、躍動感あふれるロックダンスやブレイクダンスを次々と披露し、会場から大きな拍手が沸き起こりました。江田智哉君（3年）は「貴重な体験で、プロのレベルの高さを肌で感じる事ができた。学校行事などでダンスを披露する際に活かしたい」と表情を輝かせていました。